



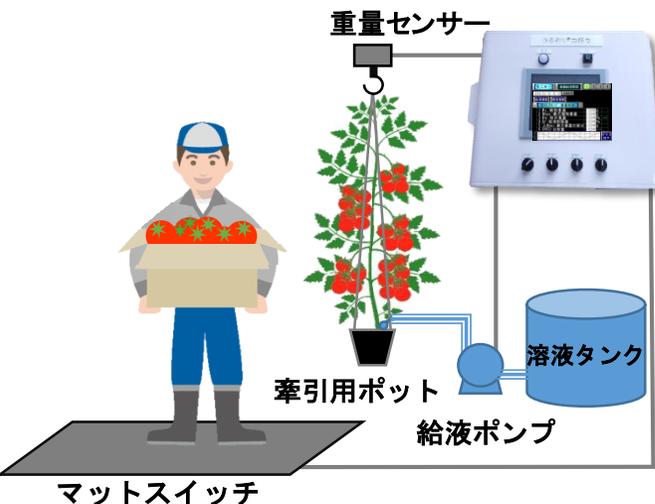
事例の概要

- 静岡県農林技術研究所(次世代栽培システム科)は、少量の培地ポットに「うるおい力持ち」を組み合わせ、高糖度・高機能性トマト(ミディトマト)栽培システムを開発した(AOIプロジェクト)。
- 本栽培システムは、少量の培地(ヤシガラ、約600mL)をポットに詰め、各ポットにドリッパーをつけて培養液を供給するもの。「うるおい力持ち」を用いて、適切な自動給液を実現した。
- 10月定植の栽培試験では(品種:シンディスイート、摘心:7段果房、栽植密度:3000株/10a)、平均果重は15g、糖度は8~12度に上昇した。さらに、GABA含量は100~150 mg/100 gに上昇した。可販果収量は4.5 t/10 aで、年2.5回の作付けができれば10t以上の収量が見込まれる。
- AOIプロジェクトのモデル実証事業等を活用し現場導入が見込まれる。

事例の概要

- 埼玉県草加市に圃場を構えるU農園は都心から約1キロの場所で品質重視型トマト栽培に取り組んでおり、令和元年度から「うるおい力持ち」を活用した食味の向上を目指したミディトマト栽培に取り組んでいる。
- 導入のきっかけは、AOI-PARC研究用温室で試験栽培中の「うるおい力持ち」を活用したトマト栽培でトマトを試食し、「これは美味しい!」と感じたこと。
- 現在、U農園では「うるおい力持ち」を含む左記の栽培システムをほぼそのまま導入し、ミディトマト栽培を開始した。
- ミディトマトの糖度は一般的に6~7度と言われているが、本栽培システムにより糖度が8~11度に上昇し、地元スーパー等と契約し高価格での販売を行っている。

うるおい力持ち



- 目標とする品質・収量(糖度、平均果重)に応じて閾値を設定する。
- 重量の変化から適切な給液のタイミングと量を判断し、栽培期間を通じて自動で適切な給液が行える。
- 重量計測株(1株/10a)の収穫・葉かき時にはマットスイッチに乗ることで給液管理に支障は出ない(重量補正機能)。



埼玉県での導入事例